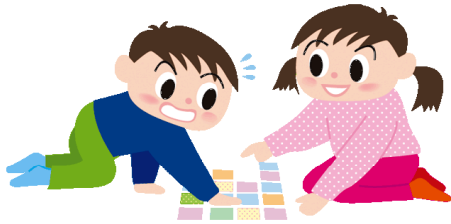


今年もよろしくお願ひいたします！！

早いもので、三学期が始まり、一週間あまりが過ぎました。今回の冬休みは、今までになく長い休みになったので、休み明けを心配していましたが、本児童クラブにも笑顔いっぱい、元気いっぱいの子どもたちの姿が見られ、安心してるところです。



もうしばらくは、児童の心身の状態について特に留意していきたいと思いますが、何かご心配なことがありましたらご連絡ください。今年も引き続きよろしくお願ひいたします。



保護者の皆様へのお願い

ランドセルや上着のポケットの中の確認を

昨年末にも、すでにお願ひさせていただいたことですが、ランドセルの中や上着のポケットの中に児童クラブで出したおやつが残っていないかの確認を親子でするようお願ひいたします。ランドセルの中や上着のポケットの中に入ったまま、児童が学校に行ったことから、トラブルになったケースがあったそうです。よろしくお願ひいたします。



【連絡】

1. 「会員継続のための必要書類」の提出締め切りが、今週の金曜日(17日)になっています。

すでに提出していただいている方もいらっしゃると思いますが、必要書類(①家庭状況調査票②就労証明書③写真公開にともなう調査のお願い)の提出についてよろしくお願ひします。就労証明書については、事情により後日の提出になっても構いませんので、その場合は、ご連絡ください。

2. 「保護者説明会」の開催について

今年度も、明和児童クラブの「保護者説明会」を以下のとおり実施いたします。今年度は、新会員の皆様と継続会員の皆様に対して合同で説明会を実施させていただくこととなりました。新会員の皆様は、原則として全員の参加をお願ひいたしますが、継続会員の皆様は、希望者による参加とさせていただきます。期日が近くなりましたら、参加希望についてうかがわせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

日時： 令和2年3月7日(土曜日) 13:00~14:00 (予定)

場所： 明和幼稚園体育館

内容： ①令和2年度の児童クラブの運営について
②利用時間、開所日、費用、送迎等について
③児童クラブでの生活について
④諸手続について
⑤その他、質疑応答等

その他： *説明会の当日に、説明会資料といっしょに、それぞれのお子様の「児童クラブ入会継続許可書」をお渡しする予定です。なお、説明会への参加を希望しなかった皆様には、3月9日以降のお迎えの時にお渡しいたします。

子育てのあれこれ No. 7

前回のこのコーナーでは、漢字テストで100点を取った子の「ほめ方」について紹介させていただきました。そこで今回は、「ほめ方」よりも難しい「叱り方」について事例を通して考えてみたいと思います。

事例 小学校6年生のA男は、学校から帰ると宿題もせずに、B男の家に遊びに行っ
て帰りが6時頃になってしまった。「宿題を済ませてから行くこと」と「5時30分
には家に帰ること」が親との約束になっていたが、「C男の家に行ったときも、D男
の家に行ったときも守れなくても叱られなかった」ので、A男は内心、今回も大丈夫
だろうと思っていた。ところが、B男の家から帰ってくるなり・・・

【母親】「何時だと思っているの！宿題もしないで！ここへ来なさい！B男君の家にも
悪いし・・・しつけをしていないと思われるでしょう！」

【A男】「・・・」(内心：きょうはヤバイかも。B男の家に行ったのが悪かったかな？)

【母親】「いつも宿題を後回しにするから、寝るのが遅くなるでしょう！こんなことし
ているから、テストの点だって・・・。部屋の片付けもできていないし！お兄ち
ゃんはこんなことなかったのに！6年生にもなって！少しは悪いと思っている
の！A男のことを思っているから叱るのよ！ここに座って少し反省しなさい！遊
びに行くときは、どういう約束だったかもう一度言ってみなさい！・・・」

*その後、20分ほどして、母親の怒りも静まり、A男は解放された。
さて、上の事例でこれはまずいのではと感じるたことはあったでしょうか？

(1) 発達段階を考慮した叱り方を

子どもによっても多少違いますが、一般的には、論理的な思考力が未熟な発達段階で
ある10歳以下の子には、ある程度、頭ごなしに叱っても子どもは受け入れることがで
きますが、「注意・叱責の繰り返しは、論理的な思考力がついてくる、子どもの年齢が
高くなるほど「うるさい」と感じるようになると教育心理学では言われています。

子どもは、「神妙に聞いているふりをしていること」が「一刻も早く、注意・叱責か
ら逃れる方法である」ことを学習するからです。したがって厳しくても簡潔な叱り方
の方が有効です。例えば、次のような親の言葉に対しては、子どもは以下のように思
うかも知れません。

親：「・・・で恥ずかしい、情けない、みっともない、合わせる 顔が無い、・・・
のことを思って、注意しているんだから」

子：「自分の都合でおこっていて、本当は、私のことなんて考えていないんだ。」

また、そのように「論理的な思考力」が身につく子どもへの叱り方で避けな
ければならない3つの型があると言われています。

(2) 避けたい3つの叱り方

①**比較型**・・・兄弟や友だちと**比べる叱り方**です。比べられた瞬間に自分はその人
とは別の人間だと思うので、それ以降は何を聞いても素直に受け入れられなくなりま
す。いたずらに**劣等感や嫉妬心を育てることにも**なってしまいます。**事例の「お兄ち
ゃんは・・・」がこれに当たります。**

②**矛盾型**・・・以前に言ったことと、今言われていることが矛盾している場合です。
同じことなのに以前しかられなかったのに、今回はしかられているといった場合も同
じです。矛盾しているので、**納得できないばかりか、「許される境界」が明確でない
ために、情緒が不安定になる危険**があります。事例の場合がそうで、別の原因を憶測
すること(B男の母と仲が悪いので・・・)にもつながってしまいます。

③**陳列型**・・・過去のことで持ち出してしかることです。悪い「言動について」し
かることが必要なのに、「人格について」しかることに陥りやすくなります。しかる
場合には、「**今のことだけ」「ここで(その時に)」が大原則**と言われています。**事
例では、部屋の片付けやテストは別件**です。また、「**A男=悪い子**」といった叱り方
ではなく、「**A男のしたこと=悪いこと**」といった叱り方が大切になります。

子どもの叱り方も難しいとつくづく感じます。「厳しくも簡潔にしかる」ことは、
一般的には父親の方が得意かも知れませんが、年齢が高くなるほどそれが重要です。し
かし、母親でも、「父親的な叱り方」ができれば、何の問題もありません。

(参考文献)「子どもがのびのび育つ叱り方 ストレスになるほめ方」(加藤諦三)、「荒廃する親子関
係」(黒川昭登)、「しかるが育てるもの」(高野清純)、「子どもの能力の見つけ方・伸ばし方」
『心の基地』はおかあさん(平井信義)、「アドラー博士の子育てワークブック」『失敗に負けない子』に
育てる本、「子どもを勇気づける20の方法」(星一郎)、「ホネの教育論」(橋爪俊明)他

このコーナーで紹介させていただいている子育て論等は、「あくまでも理想」な
ので、ほとんどの大人たちはそのようにはできないのが現実であり、そのよう
にはできなくてもそれが普通です。ですから、もしそのようにできればそれに超した
ことはない程度に受け止めていただくのがいいと思います。

